

031 沼目町区有文書と目録作成について

1 本区有文書は、須坂市沼目町が所蔵、保管している文書である。

旧百々川と八木沢川に挟まれた須坂扇状地の西端に位置する沼目村は、信濃国高井郡の一村として、慶長5年(1600)森忠政領、同8年には松平忠輝領となっている。その後、元和元年(1615)以降は、須坂藩領の村となり、誇りある村の歴史と伝統を創り上げてきた。

2 村高をみると、「慶長打立帳」418石余、「元禄郷帳」424石余、「天保郷帳」438石余、「旧高旧領」439石余と420～30石ほどで、どちらかというとならば藩領13ヶ村の中では少ない方の村に属している。

しかし、『須坂市史』によれば、元禄3年(1690)の租率は、五ツ六厘(50%余)で藩内最高となっている。土目が肥えた生産力の高い村であったという証左であろう。

明治11年(1878)の村内概況取調書によれば、戸数62戸、人数302人、耕地は田32町余・畑14町余と記載されている。平成22年(2010)現在の世帯数は94、人口は326人となっている。

3 ここに登場する沼目町区域の人々は、生きて育った故郷、地域の生きざまを累々として記録し、史料として遺しいまに伝えている。

沼目町の区有文書には、最古史料としては、元禄12年5月に書写した寛永5年(1628)9月の「沼目村地詰御帳」がある。江戸期全般を通して目につく名寄帳をはじめとして、涅槃絵像ほか薬師堂に関わる史料も見られる。

区民が生きてきた証である貴重な史料が、700点余の史料として存在している。

4 ここでは、その史料を、『須坂市沼目町区有文書目録』として作成する。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「031」(31番目)に位置付け、史料番号は「031 - A - 1」から開始し、整理ラベルを貼付した。

5 『須坂市沼目町区有文書目録』は、史料内容の特徴を生かして、つぎのように分類して史料目録を作成した。総史料番号(枝番号含む)は580余、総史料点数は700点余にのぼっている。

分類項目	史料番号	史料点数
A 江戸期	130	142
B 明治大正期	78	148
C 昭和期以降	324	348
D 絵地図ほか	32	32
E 薬師堂関係	23	31
総計	587	701

6 本史料目録が、沼目町区民をはじめ須坂市民ほか多くの関心を持つ地域史研究者によって活用されることを願ってやまない。とともに、当区有文書の史料調査・研究を深めて、

新たな沼目町区民の歴史を開拓し、区民の歴史を叙述・編さんして、子々孫々に伝えられることを期待したい。

7 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮して、つぎのようにした。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などには、つぎのように（ ）をもちいて仮表題を作成し掲げた。

(現地目調査野帳)

(洪水絵図面)

(2) 「記」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように（ ）内に内容説明を記載したものもある。

記(領収書)

覚(土地借用書)

(3) 請取りなど切手類の史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、つぎのように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」と略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。

上納金領収書、外5点

請願書、外9点

(4) 史料形態については、つぎのように略記した。

横(横帳)、横半(横半帳)、 縦(縦帳)、 紙(一紙)、

封(封書)、 冊(冊子)、 綴(ジョイント含む)、括、など

8 本史料目録は、沼目町のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

小林 裕

井上光由

竹内正勝

涌井二夫

勝山一男

丸山文雄

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2010年10月25日

須坂市誌編さん室